



評価は 1～7 の大項目、128 の小項目から構成されている。「4」が当てはまる、「3」がほぼ当てはまる、「2」がやや当てはまる、「1」が当てはまらない、となっている。

### 1. 教育理念・目的・目標

評価は 3.5 と高かった。年度初めに教育理念・目的・目標を確認し、学校運営計画に反映させた。当校においては講義・実習・教科外、クラス運営など全てにおいて理念・目的・目標が反映し運営してきたことが評価された。

### 2. 教育課程経営

実習担当者会議（1～2回/月）、カリキュラム会議（1回/月）、教員会議（1回/週）で教育課程の見直し、教育への反映を行っている。また、実習指導者会議も1回/月（外部施設は2回/年）で行い、学生の実習支援体制の充実に努めた点が評価された。

### 3. 教授・学習・評価過程

各科目間の関連性を意識しながら学生が主体的に学べるアクティブラーニングを推進した。また、「学生による評価」表を見直し教授する講師の自己評価に役立てるものとしたことが評価された。

### 4. 経営・管理過程

学校施設の定期整備を行い、理念に基づき学生が主体的に学べるように整えてきた。また、広報活動として高校訪問の他、公開講座なども行い当校の学生数を確保して山口県岩国地域及び中国・九州等の医療を担う看護者育成に努力してきた。さらに教員による自己点検や NHO の相互評価も計画しており、適正な経営・管理がなされている点が評価された。

### 5. 入学

入学試験の妥当性が評価された。また、適正な入学者の確保もできており、その点も評価された。

### 6. 卒業・就職・進学

卒業生の就業・進路状況、国家試験状況の分析を行った。その結果を今後活用できるように会議で報告しており、今後も継続していく。

### 7. 地域社会/国際交流

27 年度評価においては、最も低い項目であった。そのため、運営計画に掲げ、海軍クリニック施設の医療スタッフとの交流を行い国際的な視野を広げた。また、地域包括ケアシステムを意識した教育内容の検討を行い地域社会に目を向けるように努力してきた。今後運用して評価していきたい。

### 8. 研究

昨年度同様に各教員の研究活動が行えるように助成金支援を行った。研究活動の時間確保はクラス・行事運営、講義、実習指導を明確にして互いに協力し行えるようにしているが、1人1題の研究を行うまでの研究活動推進には至っていない。